

基礎数学 A2	入学年度	学部	学科	組	番号	検	氏名
金曜 2 限 担当: 鎌田 政人							

●最終的な答えだけを書くのではなく、途中の計算や説明も簡潔に書くこと。そうでない場合は大きく減点する。

1) $f(x) = \frac{4x+5}{2x+3}$ とする。

a) $f(x)$ の定義域を述べよ。

分母 $\neq 0$ より、 $x \neq -\frac{3}{2}$ (正確には $\{x \mid x \neq -\frac{3}{2}\}$)

b) $f(x)$ を $a + \frac{b}{2x+3}$ の形に表せ。

$4x+5$ を $2x+3$ で割り算すると、商は 2、余りは -1 なので、

$$f(x) = \frac{4x+5}{2x+3} = 2 + \frac{-1}{2x+3}$$

c) x が -1 から $-1+h$ まで変化するときの $f(x)$ の平均変化率を求め、なるべく簡単な形で表せ。 [ヒント: 前問の形に直してから計算するとよい。]

$$\begin{aligned} \frac{f(-1+h) - f(-1)}{h} &= \frac{\left(2 + \frac{-1}{2(-1+h)+3}\right) - \left(2 + \frac{-1}{2 \times (-1)+3}\right)}{h} \\ &= \frac{\frac{-1}{1+2h} - (-1)}{h} = \frac{-1 + (1+2h)}{h(1+2h)} = \frac{2h}{h(1+2h)} = \frac{2}{1+2h} \end{aligned}$$

d) $f(x)$ の $x = -1$ における微分係数を極限による定義を用いて計算せよ。

e) の結果を用いて、

$$f'(1) = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{f(1+h) - f(1)}{h} = \lim_{h \rightarrow 0} \frac{2}{1+2h} = 2$$

e) $y = f(x)$ のグラフの $(-1, f(-1))$ における接線の方程式を求めよ。

接線の方程式は $y - f(-1) = f'(-1)(x - (-1))$ で与えられる。

$$f(-1) = 1, f'(-1) = 2 \text{ より, } y - 1 = 2(x + 1)$$

$$\therefore y = 2x + 3$$

f) $y = f(x)$ のグラフと直線 $y = -\frac{1}{2}x + \frac{5}{4}$ の交点を求めよ。

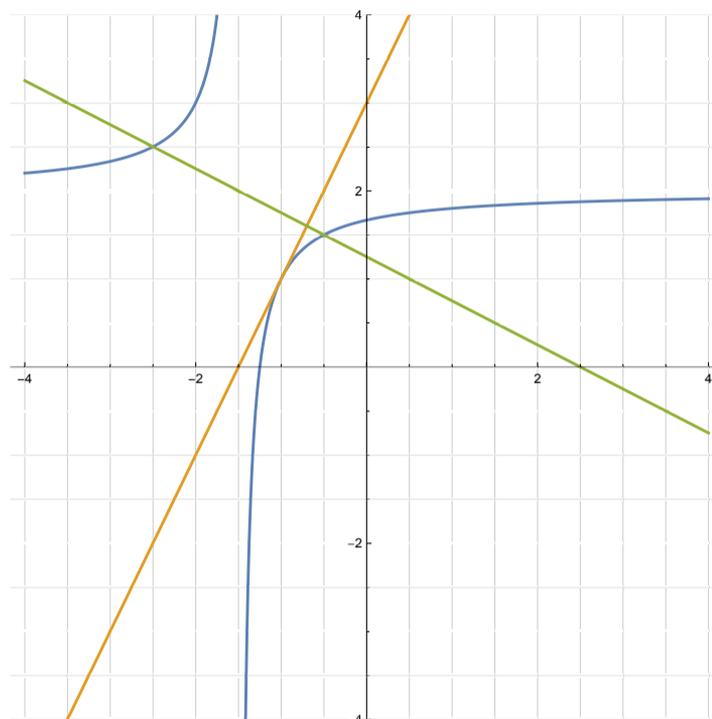
$$\frac{4x+5}{2x+3} = -\frac{1}{2}x + \frac{5}{4} \text{ を解く. } 4x+5 = (2x+3)\left(-\frac{1}{2}x + \frac{5}{4}\right) \text{ を整理して,}$$

$$4x^2 + 12x + 5 = 0 \Leftrightarrow (2x+1)(2x+5) = 0. \text{ したがって,}$$

$$x = -\frac{1}{2} \text{ または } -\frac{5}{2}. \text{ それぞれについて } y \text{ 座標を求めると,}$$

$$\text{交点は } \left(-\frac{1}{2}, \frac{3}{2}\right) \text{ と } \left(-\frac{5}{2}, \frac{5}{2}\right) \text{ の 2 つであることがわかる.}$$

g) $y = f(x)$ のグラフ、e) で求めた接線、および直線 $y = -\frac{1}{2}x + \frac{5}{4}$ を下の座標平面内に描け。



h) グラフを利用して不等式 $\frac{4x+5}{2x+3} \leq -\frac{1}{2}x + \frac{5}{4}$ を解け。

$y = \frac{4x+5}{2x+3}$ のグラフが直線 $y = -\frac{1}{2}x + \frac{5}{4}$ より下にある x の範囲を求めればよい。グラフを参照して、 $x \leq -\frac{5}{2}$ または $-\frac{3}{2} < x \leq -\frac{1}{2}$ 。

i) $y = f(x)$ の逆関数 $y = f^{-1}(x)$ を求め、その定義域を示せ。

$y = \frac{4x+5}{2x+3}$ を x について解けばよい。まず分母を払って、 $(2x+3)y = 4x+5$ 。これを x について整理すると、 $(2y-4)x = 5-3y$ 。この x についての方程式は $y \neq 2$ のとき解を持ち、 $x = \frac{5-3y}{2(y-2)}$ 。ここで、 y と x を入れ替えて $y = \frac{5-3x}{2(x-2)}$ 。 $\therefore f^{-1}(x) = \frac{5-3x}{2(x-2)}$ 。 定義域は $x \neq 2$ 。

j) $y = f(x)$ および、 $y = f^{-1}(x)$ の値域を示せ。

$$y = f(x) \text{ の値域: } y \neq 2$$

$$y = f^{-1}(x) \text{ の値域: } y \neq -\frac{3}{2}$$

k) $(f^{-1} \circ f)(x) = x$ が成り立つことを確かめよ。

$$\begin{aligned} (f^{-1} \circ f)(x) &= \frac{5-3\frac{4x+5}{2x+3}}{2\left(\frac{4x+5}{2x+3}-2\right)} = \frac{5(2x+3)-3(4x+5)}{2((4x+5)-2(2x+3))} \\ &= \frac{2x}{-2 \times (-1)} = x \end{aligned}$$

2] $f(x) = \sqrt{2x+5}$ とする。以下の問いに答えよ。

a) 関数 $y = f(x)$ の定義域と値域を求めよ。

定義域: $x \geq -\frac{5}{2}$ (根号内 ≥ 0 より)

値域: $y \geq 0$

b) $y = f(x)$ の逆関数 $y = f^{-1}(x)$ を求め、その定義域と値域を述べよ。

$y = \sqrt{2x+5}$ の両辺を 2 乗して、 $y^2 = 2x+5$ 。これを x について解くと、
 $x = \frac{1}{2}(y^2 - 5)$ 。ここで、 x と y を入れ替えて、 $y = \frac{1}{2}(x^2 - 5)$ 。すなわち、
 $f^{-1}(x) = \frac{1}{2}(x^2 - 5)$ 。

$f^{-1}(x)$ の定義域は $f(x)$ の値域に一致するから、 $x \geq 0$ 。

また、 $f^{-1}(x)$ の値域は $f(x)$ の定義域に一致するので、 $y \geq -\frac{5}{2}$ 。

c) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ を求めよ。(定義に戻る必要はない。)

$$f'(x) = (\sqrt{2x+5})' = ((2x+5)^{\frac{1}{2}})' = \frac{1}{2}(2x+5)^{-\frac{1}{2}}(2x+5)'$$

$$= \frac{2}{2\sqrt{2x+5}} = \frac{1}{\sqrt{2x+5}}$$

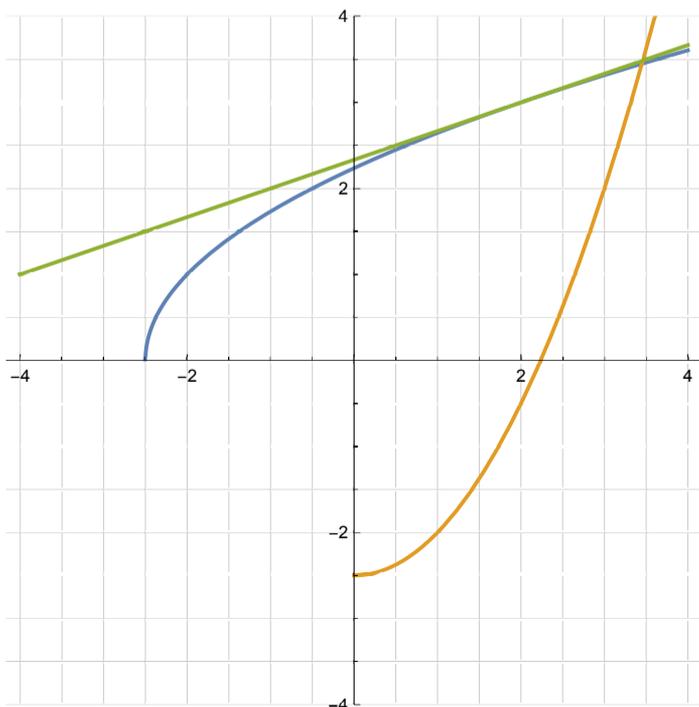
d) $y = f(x)$ のグラフの $(2, f(2))$ における接線の方程式を求めよ。

接線の方程式は $y - f(2) = f'(2)(x - 2)$ で与えられる。

$f(2) = 3, f'(2) = \frac{1}{3}$ より、 $y - 3 = \frac{1}{3}(x - 2)$

$\therefore y = \frac{1}{3}x + \frac{7}{3}$

e) $y = f(x)$ のグラフ、 $(2, f(2))$ における接線、および逆関数 $y = f^{-1}(x)$ のグラフの 3 つを右上の座標平面内に描け。



3] $f(x) = (x^2 + 2x)e^{-x}$ とする。

a) $e \doteq 2.72, e^{-1} \doteq 0.368$ として $f(-2), f(-1), f(0), f(1), f(2)$ をそれぞれ求めよ。

$$f(-2) = 0 \qquad f(-1) = -2.72 \qquad f(0) = 0$$

$$f(1) = 1.10 \qquad f(2) = 1.08$$

b) $f(x)$ の導関数 $f'(x)$ を求めよ。

$$f'(x) = (x^2 + 2x)'e^{-x} + (x^2 + 2x)(e^{-x})'$$

$$= (2x + 2)e^{-x} + (x^2 + 2x)e^{-x} \times (-1)$$

$$= (2 - x^2)e^{-x}$$

c) $f'(x) = 0$ となる x と、 $f'(x) > 0$ となる x の範囲を求めよ。

$$f'(x) = 0 \Leftrightarrow (2 - x^2)e^{-x} = 0 \Leftrightarrow 2 - x^2 = 0 \Leftrightarrow x = \pm\sqrt{2}$$

$$f'(x) > 0 \Leftrightarrow (2 - x^2)e^{-x} > 0 \Leftrightarrow 2 - x^2 > 0 \Leftrightarrow -\sqrt{2} < x < \sqrt{2}$$

d) $f(x)$ の 2 階導関数 $f''(x)$ を求めよ。

$$f''(x) = (2 - x^2)'e^{-x} + (2 - x^2)(e^{-x})'$$

$$= (-2x)e^{-x} + (2 - x^2)e^{-x} \times (-1)$$

$$= (x^2 - 2x - 2)e^{-x}$$

e) $f''(x) = 0$ となる x と、 $f''(x) > 0$ となる x の範囲を求めよ。

$$f''(x) = 0 \Leftrightarrow (x^2 - 2x - 2)e^{-x} = 0 \Leftrightarrow x^2 - 2x - 2 = 0 \Leftrightarrow x = 1 \pm \sqrt{3}$$

$$f''(x) > 0 \Leftrightarrow (x^2 - 2x - 2)e^{-x} > 0 \Leftrightarrow x^2 - 2x - 2 > 0$$

$$\Leftrightarrow x < 1 - \sqrt{3} \text{ または } x > 1 + \sqrt{3}$$

f) 関数 $f(x)$ の増減表を書き、グラフ $y = f(x)$ の凹凸を調べよ。(凹凸は曲がった矢印 \curvearrowright \curvearrowleft \curvearrowright \curvearrowleft で表すこと。)

x	...	$-\sqrt{2}$...	$1 - \sqrt{3}$...	$\sqrt{2}$...	$1 + \sqrt{3}$...
$f'(x)$	-	0	+	+	+	0	-	-	-
$f''(x)$	+	+	+	0	-	-	-	0	+
$f(x)$		\curvearrowleft	極小	\curvearrowright	変曲点	\curvearrowleft	極大	\curvearrowright	変曲点

g) $f(x)$ の極大値・極小値と、それをとるとききの x の値を求めよ。

極小値: $(2 - 2\sqrt{2})e^{\sqrt{2}}$ ($x = -\sqrt{2}$)

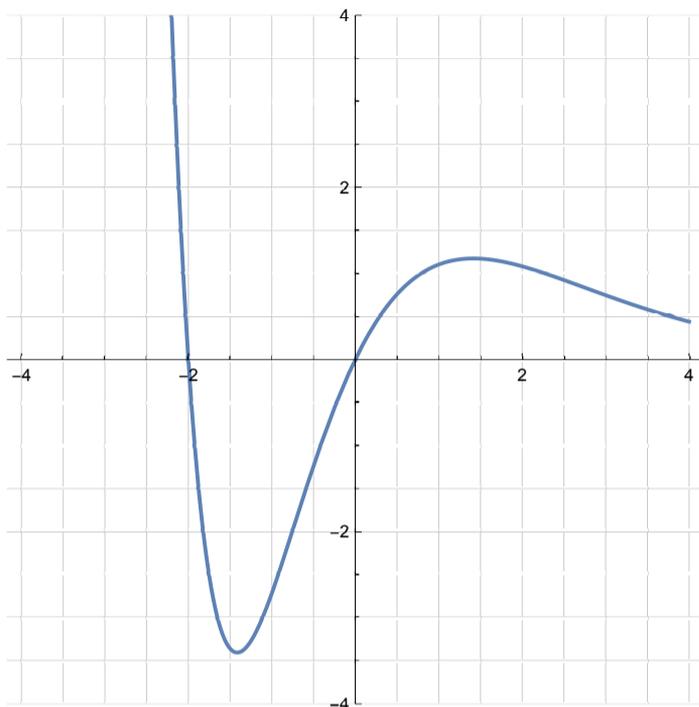
極大値: $(2 + 2\sqrt{2})e^{-\sqrt{2}}$ ($x = \sqrt{2}$)

h) $y = f(x)$ のグラフの変曲点の x 座標を求めよ。

変曲点の x 座標は: $1 - \sqrt{3}, 1 + \sqrt{3}$

基礎数学 A2	入学年度	学部	学科	組	番号	検	氏名
金曜2限 担当: 鎌田 政人							

- i) ここまでの結果を反映させ、 $y = f(x)$ のグラフを丁寧に描け。必要とあらば、 $f(-\sqrt{2}) \cong -3.408$, $f(\sqrt{2}) \cong 1.174$, $f(1-\sqrt{3}) \cong -1.930$, $f(1+\sqrt{3}) \cong 0.842$ であることを用いてもよい。



- 4] 次の各々の関数の導関数を求めよ。

a) $f(x) = \frac{x+2}{x^2-x+1}$

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{(x+2)'(x^2-x+1) - (x+2)(x^2-x+1)'}{(x^2-x+1)^2} \\ &= \frac{(x^2-x+1) - (x+2)(2x-1)}{(x^2-x+1)^2} \\ &= \frac{-x^2-4x+3}{(x^2-x+1)^2} \end{aligned}$$

b) $f(x) = \frac{x}{\sqrt{1+x^2}}$

$$\begin{aligned} f'(x) &= \frac{(x)'\sqrt{1+x^2} - x(\sqrt{1+x^2})'}{(\sqrt{1+x^2})^2} = \frac{\sqrt{1+x^2} - x \cdot \frac{(1+x^2)'}{2\sqrt{1+x^2}}}{1+x^2} \\ &= \frac{1+x^2-x^2}{(1+x^2)\sqrt{1+x^2}} = \frac{1}{(1+x^2)\sqrt{1+x^2}} \end{aligned}$$

c) $f(x) = \log \left| \frac{x+1}{x-1} \right|$

$$\begin{aligned} f(x) &= \log|x+1| - \log|x-1| \text{ だから,} \\ f'(x) &= \frac{1}{x+1} - \frac{1}{x-1} = \frac{(x-1) - (x+1)}{(x+1)(x-1)} = \frac{-2}{x^2-1} \end{aligned}$$

- 5] 微分の公式 $(x^a)' = ax^{a-1}$ について、 $a = n$ (n は整数) の場合と、 $a = \frac{1}{n}$ (n は整数) の場合はすでに証明されていると仮定して、 $a = \frac{m}{n}$ (m, n は整数) の場合を合成関数の微分公式を用いて証明せよ。

$$u = x^m, y = u^{\frac{1}{n}} \text{ とおくと, } y = x^{\frac{m}{n}}.$$

$$\text{すでに証明されているとしていることから, } \frac{du}{dx} = mx^{m-1}, \frac{dy}{du} = \frac{1}{n}u^{\frac{1}{n}-1}.$$

したがって、

$$\begin{aligned} \left(x^{\frac{m}{n}}\right)' &= \frac{dy}{dx} = \frac{dy}{du} \cdot \frac{du}{dx} \\ &= mx^{m-1} \cdot \frac{1}{n}u^{\frac{1}{n}-1} \\ &= \frac{m}{n}x^{m-1} \cdot (x^m)^{\frac{1}{n}-1} \\ &= \frac{m}{n}x^{m-1+\frac{m}{n}-m} \\ &= \frac{m}{n}x^{\frac{m}{n}-1} \end{aligned}$$

これより、 $a = \frac{m}{n}$ の場合も $(x^a)' = ax^{a-1}$ が成り立つ。

- 6] a) $\lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}} = e$ であることを用いて、極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{r}{n}\right)^n$ を求めよ。ただし、 r は定数である。

$$h = \frac{r}{n} \text{ とおくと, } h \rightarrow 0 \Leftrightarrow n \rightarrow \infty \text{ だから,}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \left(1 + \frac{r}{n}\right)^n = \lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{r}{h}} = \lim_{h \rightarrow 0} \left((1+h)^{\frac{1}{h}}\right)^r = \left(\lim_{h \rightarrow 0} (1+h)^{\frac{1}{h}}\right)^r = e^r$$

- b) 元本 A を年利 r の連続複利で運用すると、1年後の元利合計は Ae^r となる。年利 4% ($r = 0.04$) の連続複利で運用した場合、元本がもとの2倍になるのはおよそ何年後か。 $\log 2 = 0.693$ として計算せよ。

年利 4% ($r = 0.04$) の連続複利で m 年間運用すると、元利合計は

$$A(e^{0.04})^m = Ae^{0.04m} \text{ になる。これが } 2A \text{ になるの } m \text{ を求めればよい。}$$

$$Ae^{0.04m} = 2A$$

$$\Leftrightarrow e^{0.04m} = 2$$

$$\Leftrightarrow 0.04m = \log 2$$

$$m = \frac{\log 2}{0.04} = \frac{0.693}{0.04} = 17.33$$

したがって、元本が2倍になるのは約 $17\frac{1}{3}$ 年、すなわち約 17 年 4 ヶ月後。